

茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成29年 10月

1 東京都中央卸売市場(平成29年1~9月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は146.5万tで、前年比2%増、金額は4,184億円で前年比1%減となった。
- ② 茨城県産の入荷量は16.4万tで、前年比2%増、金額は429億円で前年比2%減となった。

(金額の内訳は、野菜350億円、果実79億円。前年同期比で野菜2%減、果実増減なし、平年同期比で野菜8%増、果実8%増)
 →金額が【増加】した品目(前年対比)：はくさい(158%)、こまつな(106%)、幸水(109%)、こだますいか(109%)
 →金額が【減少】した品目(前年対比)：レタス類(73%)、きゅうり(83%)、トマト(90%)、れんこん(90%)

- ③ 茨城県の1~9月計の青果物入荷量は前年比105%(シェア11.2%)、取扱金額は同108%(シェア10.3%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1~9月計)			
	1~9月計	年間計	年間比	1~9月計	年間計	年間比	千葉	北海道	青森	
数量	H29	1,464,510		163,506	←シェア(11.2%)		11.0%	10.2%	5.7%	
	H28	1,431,666	1,956,079	73.2	160,451	229,650	69.9	11.7%	9.9%	5.9%
	(前年比)	102		102	シェア(11.2%)					
	平年値※	1,462,854	2,013,667	72.6	156,410	226,294	69.1			
	(平年比)	100		105	シェア(10.7%)					
金額	H29	418,394		42,935	←シェア(10.3%)		8.0%	5.7%	5.8%	
	H28	423,092	586,489	72.1	43,706	61,743	70.8	8.0%	5.8%	6.2%
	(前年比)	99		98	シェア(10.3%)					
	平年値※	403,900	513,609	77.4	39,620	53,617	73.9			
	(平年比)	104		108	シェア(9.8%)					

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成24~28年の5カ年平均。
 ※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》
 平成28年実績(1~12月計)
 茨城県：金額シェア(10.5%)、数量シェア(11.7%)
 千葉県：金額シェア(8.0%)、数量シェア(11.5%)
 北海道：金額シェア(6.4%)、数量シェア(11.2%)

2 東京都中央卸売市場(平成29年9月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約1万トン(115%)、単価は324円(89%)、金額は約33億円(102%)
 果実類の入荷量は約2千トン(103%)、単価は343円(101%)、金額は約8.7億円(104%)

	品目	数量(t)				単価(円/kg)				金額(千円)		
		前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	れんこん	818	105	95	95	495	93	109	109	404,776	97	104
	ピーマン	933	93	112	106	359	114	96	97	335,165	106	112
	ミニトマト	404	77	100	124	666	144	109	110	269,396	111	110
	トマト	687	76	82	93	361	131	105	112	248,326	99	89
	野菜類計	10,277	115	121	103	324	89	88	94	3,333,766	102	107
果実	日本なし類	1,853	106	100	108	255	102	101	99	471,981	108	102
	くり	397	95	72	71	716	100	155	146	284,032	95	115
	果実類計	2,545	103	92	98	343	101	113	112	872,948	104	104

(野菜)

- れんこん 茨城県産れんこんは、定植後の低温による地上部の初期生育の遅れや、塊茎肥大期である8月の連続した曇雨天による日照不足から、肥大がやや鈍り、作柄は平年を下回るものの、9月は天候に恵まれ掘り取り作業も進んだことから入荷量は前年比105%、平年比95%、市場全体では前年比95%であった。単価は、前年比93%、平年比109%と、高値であった昨年を下回るものの平年を上回り調整、金額は前年比97%、平年比104%であった。
- ピーマン 茨城県産ピーマンは、8月の連続した曇雨天による日照不足から、花落ちや果実の肥大、成熟遅れの影響により入荷量は前年比93%、平年比112%、市場全体では、作柄不良であった東北地域で、岩手、福島等を中心に終盤時期に収量が回復したことから平年比106%と多かった。前月の入荷不足感が徐々に解消されたことから、相場は月末に向かい緩やかに下げ基調となり、単価は前年比114%、平年比96%、金額は前年比106%、平年比112%であった。
- ミニトマト 茨城県産ミニトマトは、8月の連続した曇雨天による日照不足から、上段の花落ちがやや多く、着果量が減少したことから、入荷量は前年比77%、平年比100%と少なかった。市場全体では、北海道産(前年比108%)、青森産(同200%)と、収量が回復した東北以北の産地からの入荷量が多かったことから、平年比124%と多かった。単価は、8月の入荷量減の影響による高値基調が、9月上、中旬と保ち合いで続いたことから高く、茨城県産は前年比144%、平年比109%、金額は、前年比111%、平年比110%であった。

(果実類)

- 日本なし類 茨城県産なし類は、8月の連続した曇雨天により成熟遅れから、「豊水」の出荷開始が9月にずれこみ、入荷量は前年比106%、平年比100%、市場全体でも、千葉、栃木、福島、新潟等の他産地が、同様の理由から、9月に入り本格出荷となったため平年比108%と多かった。単価は、月末にかけて下げ基調で推移したものの、益明け以降、品薄による高値相場が9月中旬まで保ち合いで続いたため、茨城県産は前年比102%、平年比101%と堅調、金額は前年比108%、平年比102%であった。
- くり 茨城県産くり類は、昨年の台風被害による結果枝の損失等が着果量に影響を及ぼし、作柄が平年を下回った他、系統出荷が開始される前から商系の業者が買い付けに動いた事等から、早生品種を中心に市場出荷量が減少し、入荷量は前年比95%、平年比72%と少なかった。市場全体でも、主要産地である本県からの入荷量が少なかったことから、平年比71%と非常に少なかった。単価は、品薄により高騰した前年並の高値となり、前年比100%、平年比155%、金額は、前年比95%、平年比115%であった。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績及び東京青果物情報センター速報値を基に算出